

Biomedical Research 誌の概要と投稿規定

本誌は、医学生物系の広い範囲をカバーする英文誌である。1980年に創刊され、現在も隔月で発行されている。2014年に創刊35年を迎え、第35巻を発行する予定である。科学技術振興機構（JST）のデータベース（J-stage）やアメリカ国立医学図書館のデータベース（Medline）ではBiomedical Researchとして、Thomson Scientific社のデータベース（Web of Science、current contents）では、一時期同名の雑誌があったため、Biomedical Research-Tokyoとして登録されている。本誌は学協会との関係はまったくなく、独自で発行されている総合誌であり、編集部と事務局は以下の場所におかれている。

Thomson Scientific社提供のインパクトファクターは、2012年版では1.257である。本誌はJ-stageのデータベース上で2004年から電子ジャーナル化されており、閲覧の制約はつけていない。Medline (PubMed)とのリンクは2005年分から実施されており、2005年以降はPubMedからJ-stageへとリンクアウトすることにより無料で論文全体のPDFの取得が可能になっている。

◆ Biomedical Research 編集部（編集長）

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学大学院 医学研究科 組織細胞学分野
岩永 敏彦
Tel. 011-706-5033
e-mail:tiwanaga@med.hokudai.ac.jp

◆ Biomedical Research 事務局

〒418-0011 静岡県富士宮市栗倉 2480-1
(株) 矢内原研究所
Tel. 0544-22-2771
Fax. 0544-22-2770

1. 掲載論文と雑誌の性格

医学生物学分野の原著論文および総説を掲載する。統計報告や臨床医学の症例報告などは適さない。また、新薬の治療効果や食材の影響を個体レベルで調べて統計的な解析を行っただけの研究も、本誌にはふさわしくない。メカニズムの解明や医学生物学的興味をそそるものであって欲しい。

本誌では、スピーディーな論文発表をめざしており、受付から査読終了（採択の決定）まで2週間以内である。学会の機関誌ではなく、文部科学省の補助金を受けていないので、本誌の発行費用は定期購読料と著者の投稿・別刷代に頼っている。

2. 論文のタイプ

Full paper は、title page, abstract（英単語数で200を越えない）、introduction（見出しは不要）、materials and methods, results, discussion（results & discussionも可）、acknowledgements, references, tables, figure legends, figures という順序で構成される。

Communication（短報）は、刷り上がり4ページ以内の長さを目安に、原稿では上記のようなセクションに分けず、見出しもつけない。「短報」は、単に短い論文を指すわけではない。意外性やオリジナリティは非常に高いけれど、所見の厚みを増す（より確実なものにする）には時間がかかるため、プライオリティをとることを第一に考え迅速に発表するものである。

原稿では十分な行間をとり（ダブルスペース）、各ページの上下左右には十分な余白を設ける。タイトルページには、タイトル、著者名、所属、30字以内の短いタイトル（running title）、代表著者（corresponding author）の連絡先をつける。キーワードは必要ない。その他のスタイルは、最近の掲載論文を参考に。

3. 単位の表記

主な単位では、L（リッター）、h（hour）、min（minute）、s（second）、ms（millisecond）、 $\times g$ を用いる。ラテン語はイタリック（斜体）表記にする（例：*in vitro*, *in situ*, *et al.*）。そのほか、Probability は *P*（大文字、イタリック）、Student's paired *t* test の *t* は（小文字、イタリック）、キロダルトンは kDa。

4. 文献の引用

文献は、abc 順に番号をつけ、本文中では番号（算用数字）で引用する。引用文献のスタイルは、掲載論文を参照のこと。

5. 図のサイズ

印刷時に図は 16 cm (ページのヨコの長さ) か半分の 8 cm に縮小される。図は関連のあるもの、同じページに掲載したいものは、著者自身が組み合わせ、希望するレイアウトを提示すること。カラー印刷はページごとに印刷代がかかるので、なるべく同じページにまとめて、カラーページの総数を減らした方がよい。

6. 投稿方法

投稿時には、プリントアウトしたもの 2 部をどちらかの編集長宛に郵送する。原則として実物を郵送してもらすが、急ぎの際は E メールによる投稿も可能である。

◆ Biomedical Research 編集長

〒060-8638 札幌市北区北 15 条西 7 丁目

北海道大学大学院 医学研究科

組織細胞学分野

岩永 敏彦

e-mail: tiwanaga@med.hokudai.ac.jp

〒010-8534 秋田市本道 1-1-1

秋田大学 医学部

器官制御学分野

河谷 正仁

e-mail: masak@med.akita-u.ac.jp

7. 著者負担

ページチャージとして刷り上がり 1 ページにつき 3,000 円かかる。

カラーページは、1 ページにつき 20,000 円、2 ページ以降は 10,000 円/ページになる (ともに消費税別)。

論文作成の注意点

1. パラグラフの構築

内容が変わるごとにパラグラフを新しくする。パラグラフの最初の文を読めば、そのパラグラフで扱っていることがわかるようにする (topic sentence)。パラグラフの最後の文は、そのパラグラフで述べたことの結論になっている (concluding sentence)。従って、パラグラフにはある程度の長さが必要である。

2. 受動態よりも能動態

より英語らしい表現にするには、できるかぎり能動態にすべきである。日本人の英語は受動態が多い傾向にあるので注意して欲しい。

3. 見出し

Results や Discussion が長くなるときは、見出しをつけていくつかの部分に分けて、読みやすくする。

4. カンマの多用により文章がぶつ切れになるので、できるだけ少なくする。「ところで、参考まで」といった説明が必要なときはダッシュ (長めのバー) を使うことを薦める。

5. 略語の多用はできるだけ避ける。Abstract は本文から独立しているため、本文で使う略語は初出のところで改めて説明する。

6. 図も本文から独立しており、読者が図だけを見ることを考え、図説明には最小限の情報 (最も重要な所見) を盛り込む。

7. 同じ言い回し (例えば、同じ動詞や構文を連続して使うこと) を避ける。

8. コロン (:) は「すなわち」という意味で、セミコロン (;) はカンマとピリオドの中間的な意味で用いる。

9. Times、Times New Roman など一般的なフォントを 11~12 ポイントで用い、十分な行間 (スペース) をとる。各パラグラフの最初は 3~5 文字下げる。

10. 英語では行間を読むといったことはない (コンテキストの低い言語)、言葉を

尽くして説明することを常に心がける。